慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	Preface
Author	大久保, 教宏(Okubo, Norihiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2022
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.143 (2022. 2) ,p.i- iv
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	辻幸夫先生・武藤浩史先生・太田昭子先生・ジェームズ・レイサイド先生退職記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000143--006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

2022 年 3 月 31 日をもって，法学部英語部会の 4 人の先生方が退職される。長年にわたり塾，学部での教育や様々な業務に貢献され，学界においても大いに活躍されてきた方々である。

*

辻幸夫先生は慶應義塾大学文学部，大学院文学研究科のご出身で，言わずと知れた認知言語学の大家である。日本認知言語学会を創設当初から支え，会長・理事長もお務めになった。編集主幹として大著『認知言語学大事典』（朝倉書店，2019 年）を編纂されるなど，多くの編著を世に出している。他分野の研究者とも活発に交流し，共著『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』（大修館書店，2011 年）など，その成果も多い。さらに別の共著『心とことばの脳科学』（大修館書店，2006 年）のタイトルからもわかるように，脳科学にも専門分野を広げておいでで，ご自分の専門はむしろ自然科学だとよくおっしゃっていた。人文・社会科学と自然科学との連続性は時代とともに重要となりつつあるが，辻先生は両者の垣根を自然と越える先進的科学者であったといえる。法学部では「言語学」の授業を立ち上げられ，ご担当の「人文科学研究会」からは多くの後進を送り出し，大学院文学研究科の科目「言語学特殊講義」も長らく担当されるなど，この分野の先導者としての役割を存分に果たしてこられた。また，法学部常任委員などの要職もお務めになられた。

偉大な辻先生であるが，普段は本当に気さくな方で，誰かれ分け隔てなく親しく接してくださる。他大学出身で，慶應に着任当初，ほとんど知り合いがいなかった私にも，よく声をかけてくださり，お話をさせていただいたのがとても嬉しかった。先生はご自慢の愛車で通勤されていたが，三田からの帰路，同じ千葉県民の私を乗せてくださったこともある。昨年度で退職された小屋逸樹

先生も必ず同乗されていて，私は密かにこの千葉県トリオを誇りに感じていた（先生方お二人はコンビと思っておいでだったろうが）。ついに私はソロになってしまうのかと思うと実に寂しい。

*

武藤浩史先生は慶應義塾大学文学部，大学院文学研究科で学ばれた後，英国ウォリック大学で博士号を取得された。D・H・ロレンス研究者として知られ，著書『『チャタレー夫人の恋人』と身体知―精読から生の動きの学びへ』（筑摩書房，2010 年）により，義塾賞を受賞された。ちくま文庫版『チャタレー夫人の恋人』（2004 年）の他，手がけられた翻訳も数多くあり，いずれも名訳との評価が高い。翻訳の技術を学生たちに伝える授業も熱心にご担当された。現役ダンサーとしてもご活躍の万能ぶりである。

法学部では，2009 年より 4 年間，日吉主任をお務めになられた。従来の日吉主任の概念を崩す型破りさをお持ちで，たとえば，公式の場でネクタイをまずしない，おそらく初めての日吉主任であった（肩凝り症でネクタイが苦手な私には，この伝統崩壊はとてもありがたかった）。在任中に東日本大震災が発生するなど，困難の連続であったと思われるが，武藤先生は悲壮感漂わせない飄々としたキャラクターで周囲を和ませつつ，日吉主任として様々な苦闘があったであろう中でも，愛情をもってしっかりと法学部を支えてくださった。武藤先生には，『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950 年』（慶應義塾大学出版会，2007 年）という共編著もおありだが，「愛と戦い」という部分に武藤先生ご自身の人生も投影されているように思えてならない。武藤先生は東横線沿線の隠れ家的な料理屋に詳しく，私もご一緒したことがあるが，すでに日吉主任を退かれてほっとされていたご様子が窺えて，私としても大いに安心した。一時期，武藤先生は定期的に丸刈りになられていたが，その理由を聞かずじまいのままであるのは少し心残り。いや，そのようなことより，武藤先生には日吉主任の先輩として，もっといろいろなことを教えていただきたかった。

*

太田昭子先生は東京大学教養学部卒業後，同大学大学院人文科学研究科で学ばれた。19 世紀後半の日英・日欧関係を中心に，文化接触の諸側面をご研究されてきた。当初は，初代駐日英国総領事で後に公使となるサー・ラザフォード・オールコックに関する研究に取り組まれ，その成果は数点の論考に結実している。また，共著『近代日本の内と外』（吉川弘文館，1999 年）では巻頭論文として「岩倉使節団とシカゴ」を執筆され，同じく共著『岩倉使節団の比較文化史的研究』（思文閣，2003 年）を出されるなど，太田先生は特に明治維新期の岩倉具視使節団に関して造詣が深い。私はほぼ同時代のラテンアメリカ史が専門で，外圧に抗いながら近代化を目指していく日本の維新期にも重なる部分があり，太田先生のご研究も興味深く読ませていただいた。もう 10 年以上も前のことになるが，NHK の「その時歴史が動いた」という番組で，岩倉使節団を特集するというので視たところ，なんと解説者として太田先生が出演なさっていた（「岩倉使節団　世界一周の旅～明治日本・西洋と出会う～」2009 年 1 月 14 日放送）。太田先生がこの分野を代表する研究者であることを再認識しつつ，太田先生の明瞭，快活，的確な解説にすっかり聞き入ってしまった。後日，番組を拝見しましたとお伝えすると，初めてのテレビ出演なんですよ，と恥ずかしそうに嬉しそうにお話くださった。

私が日吉主任に任じられたときは，励ましのメールをくださるなど，いつも細やかな配慮をしてくださる。法学部では学習指導副主任，常任委員などを歴任され，学部行政にも大いに貢献されてきた。ご専門を活かして，国際センター設置科目の「近代日本の対外交流史」を長らくご担当なさった。近々単著の研究書をご出版になるとのことで，今から楽しみである。

*

ジェームズ・レイサイド先生は，英国オックスフォード大学のご出身で，同大学で博士号を取得されている。日本語はネイティブ水準，フランス語も自在に操り，日英仏比較文学研究者として国際的にご活躍なさっている。三島由紀夫に関する論考が多く，共著『混沌と抗戦―三島由紀夫と日本，そして世界』（水声社，2016 年）は，三島研究者には必読の書である。論考や翻訳などを通し

て，井伏鱒二，野間宏ら多くの日本人作家を海外に紹介した功績も大きい。また，共著『英語論文に使う表現文例集』（ナツメ社，1996 年）はたいへんわかりやすく有用で，私も大いに使わせてもらった。「外国語特殊」など最上級者向けの英語科目の他，「文学」，「地域文化論」といった日吉の学部共通科目，大学院，国際センター，教養研究センター設置の科目など，実に様々な科目をご担当されてきた。教育者，研究者としてのレイサイド先生の幅の広さ，懐の深さを感じさせる。

レイサイド先生といえば，さっそうと自転車にまたがって通勤するお姿が印象深く，体育会自転車競技部の部長も長年お務めであった。法学部学習指導副主任などをお務めになった他，労働組合でもご活躍され，役職にご就任の際には，「組合運動のふるさと，イギリスからやってまいりました」とユーモアたっぷりにご挨拶して，組合員を大いに沸かせたものだ。私は法学部のある委員会で 2 年間レイサイド先生とご一緒したが，先生は肉より魚派で，委員会後の夕食で寿司など囲みながら，お話を伺うことができたのもよい思い出である。法学部初のネイティブ専任として，様々な思い，ご苦労もおありであったと察するが，寛大なお気持ちで法学部を，日本を受け止めてくださっていたと思う。どうか今後も，事故にはお気をつけて，日本社会を疾走していただきたい。

*

ご功績多く，個人的にも思い出のつきない 4 人の先生方がご退職されるのは万感胸に迫るものがある。これまでの先生方のご貢献，ご厚誼に感謝申し上げるとともに，今後も先生方がご健勝の内に一層のご活躍をなされることを祈ってやまない。

2022 年 2 月

法学部日吉主任　大久保教宏